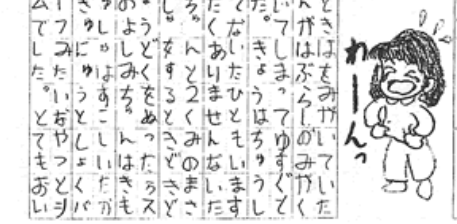
ママの大すきな静香ちゃん。これからまいにちのきをかこうね。ママはよるはみせに出ると、静香ちゃんのかおをゆっくりとってもみたくなるときがあります。でもおきゃくさんがはいっているときは、かおをみたくてもみられません。そんなときは、とってもさびしいです。いつもママはおみせがおわると静香ちゃんのよこにはいって手をにぎってねます。静香ちゃんはぐっすりねています。どんなゆめを見ているのかしら。楽しいゆめをみているといいなあと思いながらママもねます。これからは、ママにいいたい事があったらこの日記ちょうに書いておいてね。楽しみにしています。

きょうママがこのにっきちょうをかってくれましたそのとさどきどきしました。ほかにものうとやくしたじぶんもありました。それからかえるとさいとうはるおせんせいとあいましたあとかえるとさにうちのおにいちゃんのちりょうがっこうへすこしみにいきました。うちのあにいちゃんはいまとてもげんきです。がっこうのなかにいるとおもいます。きょうおにいちゃんがへんなことをいって少したしもなかしました。いじめられたとさとってもくやしかったです。おかえしにバカといいました。その時おとうさんにはいっていました。りりのすけおにいちゃんはとってもやさしくてともだちおにいちゃんはいじわるです。



きょうがっこうへいくときはもみがいたらともだちおにいちゃんがはぶらしのみかくところでのどをつっついてしまってゆずくてえちがでてしまいました。きょうはちゅうしゃもしましたちゅうしゃではんたいたくありませんないたひとはーくみのふみえちゃんと2くみのまさつぐくんです。ちゅうしゃをするとさいごにさしましたさいしょうどくをぬったらスースーしましたーくみのよしみちゃんはきもちいといってましたちゃんとしゅうしたがだですきょうしょくはぎゅうにゅうとしょくパンプリンとマーボードーフみたいなやつとジョーマイというごはんでした。とてもおいしかったです。

なぜ、親子日記を始めたのか？●

ちょっと話が前後したが、4月入学以来、静香は日に日にたくましく可愛いく成長していった。学校の事、友達との交わり、先生の事を話す時の目はキラキラしていた。まさにたて板に水で話す。それに比べ、聞き手の私ときたら何とふがいない事か。いつも二日酔いに頭はぼんやり、疲れているから、とっておきの娘の話も上の空でぬけていく。

「お話があったら7時前に全部話しなさい」

と言っても、そうそううまくできるものではない。仕事を終え、スヤスヤ寝入っている静香の寝顔を見ていた時、ふと、

「この娘、今日私に話し足りない事があったんじゃないかしら。いや、きっとあったはずだ。7時以降に何か話したい事を思いついてるはずだ」

そこで思いついたのが親子日記だった。

「いつもそばにいてやれない分、かまってやれない分をお互い書く事によって交流を深めよう」

ごく自然な気持ちから、親子日記は87年5月12日開始となった。

ママに言いたいこと……●

ママに言いたい事が……。こんな言葉かけでスタートを切った親子日記がその後66号（大学ノートの大きさの小学生「こくご」学習帳で66冊）をこすなんて夢にも思わなかった。字が上手だとか下手だとか、内容がどうであれ、我が娘の手で書いてくれたというだけで胸が一杯の毎日だった。7時以降はドアをはさみ、お互いいとしい者への想いを募らせ夢中で書いた。娘の習いたてのたどたどしい字と小1らしい言葉づかいに深夜うれし涙を何度も流した。いとしい者への情が日記の量を多くした。

7月頃学級通信で、子どもの作文の読みかた伸ばしかたと題してアドバイスされた。

してほしい3つのこと。

してはならない3つのこと。

これをじっくり読んでみて2人の息子にしてきた事はすべてしてはならない事だったような気がする。

①字が下手だといっては物差しでたたき、とことん書く事を嫌いにしてしまった。

②あの子はあんなに上手に書いているのにお前はどうして書けないの。学校に1日いたんだから何かあったで